



筑波山登山 (大正2年春)

明治33年3月、茨城県尋常中学校土浦分校は茨城県立土浦中学校として独立が認可されました。分校創立以来営々と続けられてきた様々な努力と試みによって学校の基礎が確立し、大正年間には、学校行事もほぼ定まってきました。それは、春の筑波山登山・修学旅行・水上運動会・夏休みの水泳訓練・秋の陸上運動会・冬の雪中行軍・柔剣道の寒稽古・卒業式前の予饗会等です。今回アカンサス7号では、前号に引き続き筑波山登山と修学旅行について紹介します。更に日露戦争後の満州修学旅行についても触れてみたいと思います。今の本校には修学旅行がありませんが、少なくとも戦前までは行われていました。

春の筑波へは日帰り登山

大正2年に入学した中西秀男氏(中17回卒)は、「毎年かならずやる行事の一つに春の筑波登山があった。午前6時に学校に集合して、四列側面縦隊で筑波街道を行進し、筑波神社へ参拝するとすぐに登山にかかる。同時に行列はくずれて早い者がちに登り出し、男体・女体をめぐってバラバラに土浦まで帰ってくる。足弱の下級生などは日が暮れてからたどり着いたものだ。大骨折って二十何キロ(註・片道の意味か?)、登山を含めて往復50km近い距離になる。歩くわけだが学校の行事にはいつも鍛錬という含みがあることを誰も承知していた」と回想している(創立百周年記念誌『進修百年』)。

大正5年から関西修学旅行(初めは4・5年生、後に5年生のみ)が行われるようになると、その間に1年生から4年生の全生徒が筑波登山を行った。

大正9年春の筑波登山要綱が残っている。それによると、午前5時までに校庭に集合、5時半出発。服装は制服、ゲートル又は脚絆、草鞋。健脚者に限り靴にても可とある。そして、何故か一年は和服としている(おそらく入学したばかりで、制服が整っていなかったからか?)。神郡(筑波山麓)の田井小学校までは隊列を組んで行き、昼食後登山。午後2時までに下山すること。下山後筑波駅集合、筑波駅から筑波線列車で真鍋駅に着き、そこで解散という日程であった。以前に比べれば、帰路は鉄道利用ということで体力的負担はかなり軽減された。

農繁期の修学旅行

当時の修学旅行は、農繁期で旅客が減り、鉄道運賃の割引率がよくなる6月に実施した。日程は一泊二泊で、1年生は水戸・大洗方面、2年生は銚子・成田方面、3年生は鎌倉・江ノ島方面、4年生は日光・湯本方面、5年生は箱根・小田原方面へと学年毎に目的地も決まっていた。いずれも目的地周辺では、徒歩中心の強行軍であった。

関西修学旅行始まる

初めての関西修学旅行は、大正5年4月27日から6泊7日の日程で行われた。参加学年は4・5年生であった。

行程は、伊勢・奈良・大阪・京都と廻ったが、旅館・交通機関との交渉は引率教師が行った。6泊中2泊は車中泊であり、都市間の移動のみ鉄道を利用した。見学地はすべて徒歩であり、大津・坂本から比叡山を越えて京都に入るコースは大変な強行軍であった。そのため、生徒達は帰りの車中では死んだように眠っていたという。また、引率教師もこの1週間で4キロも痩せたとか。

しかし、生徒たちは知恩院・清水寺・法隆寺・東大寺など見るもの聞くものすべてが初めて体験であり、級友と堪能した。

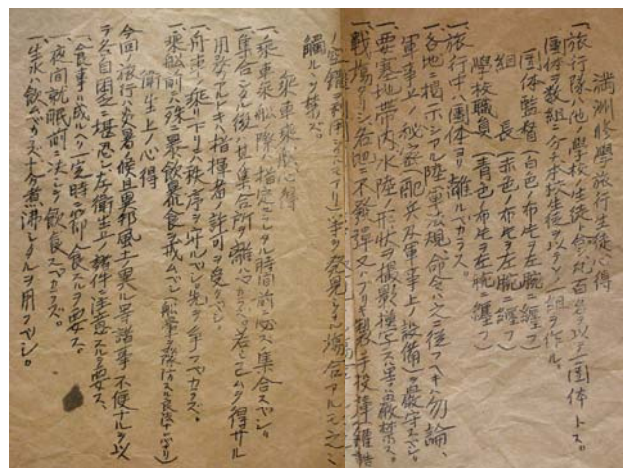
関西修学旅行の詳細な報告書や生徒の紀行文は、当時の『進修』各号に数多くみられる。

満州修学旅行

今年9月、茨城県近代美術館コレクション展が県つくば美術館で催され、茨城出身の画家3人の作品が展示された。その中の一人である永瀬義郎(中7回卒)は、満州修学旅行に参加している。

そもそも満州修学旅行とは、日露戦争後、第七高等学校(現鹿兒島大)の岩崎行親が、時の陸軍大臣寺内正毅に「血痕未だ乾かぬ戦地に引張って行って鉄鞭教育を施して見たい」と訴え、賛同を得、軍部(陸軍省・満州軍)や文部省の支援を受けて実施されるようになった。下に示した本校に残る資料「満州修学旅行生徒心得」には、一、旅行隊ハ他ノ学校ノ生徒ト合シ、凡百名ヲ以テ一団トス。一、各地ニ揭示シアル陸軍法規、命令ハ之ニ従フヘキハ勿論、軍事上ノ秘密ヲ厳守スベシ。一、戦場タリシ各地ニ不発弾又ハブリキ製手投弾等ヲ発見シタル場合アルモ之ニ触ル、ヲ禁ズ。などの文言が読み取れるように、かなり特異な修学旅行であったことがわかる。『進修』第10号に、本校からは遺澤校長引率の下、4年生の永瀬義郎や5年生の熊岡美彦ら7人の生徒

満州修学旅行生徒心得



京阪地方修学旅行報告書



が参加し、満州の山河、新戦場を歴覧し、帰国後報告会を開いたという簡単な記述があるが、報告内容の詳細は載っていない。

その後、日中戦争の本格化、太平洋戦争開戦などによって、鉄道などの輸送機関は軍用が優先されたため、満州修学旅行は行われなくなった。

本校では毎年、奈良・京都・伊勢方面への修学旅行を続けてきたが、昭和13年、時局に鑑み、県の県外修学旅行禁止通達により、取り止める。しかし、翌14年には復活し、15年には聖地巡拝旅行と称して実施したが、昭和17年の聖地巡拝なる関西修学旅行を最後に、本校の学校行事から修学旅行が消えたのである。